

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

グローバル社会を生きぬく
1 ネットワーク 2 フットワーク 3 ヘッドワーク
3つのワークを大切にし、実行できる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組み推進。
 - (1) ノートパソコン等の端末を授業で活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。
 - (2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。
 - (3) 生徒の学力向上と進路実現を支援するために、進路講演会及び放課後や土曜日を活用した無償・有償の講習を行う。授業も含め、学習動画の取り組みを導入し、取組みを充実させる。
 - (4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。生徒授業アンケートも活用し、授業指標である「桜塚教科スタンダード」やシラバスの見直しを行い授業力の向上をめざす。
 - (5) 「桜塚の総合的な探究の時間」をまとめていく。新しい大学入試を視野に入れた記述力の養成等の取組みを充実させる。幅広い科目の学習を進んで行き、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身に着け、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。
 - (6) 朝学（総合基礎）を充実させ、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿] を実施して、入学直後から自らの進路実現のため真摯に努力する態度の涵養を図る。
 - (7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数も増える取組み推進。（利用者数の前年比10%増）
 - (8) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース[GSC]とグローバルスタディサイエンスコース[GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。国公立大学30名合格を目指す。
- ※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価（H29 60.3% H30 59.2% 令和元年 62.4%）を向上させ、令和4年度には70%をめざす。
- (9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。
2. 人間力につけること、規律、安全安心について
 - (1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。規則を守り、礼儀に気をつける。
 - (2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切にする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。
 - (3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
 - (4) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。
- ※ 年間延べ遅刻者数（H29 3,489人 H30 3,639人 令和元年 2,539人）を減らし、令和4年度には、延べ2,000人以下をめざす。
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
 - (1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の期間との連携と支援を生かした取組みを展開する。
 - (2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。H30年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。
 - (3) 広報活動を積極的に行う。WEB Pageを更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、更新等に参画。
- ※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価（H29 65.0% H30 62.0% 令和元年 68.2%）を増やし、令和4年度には、70%をめざす。
4. グローバルリーダーの育成
 - (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
 - (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- ※ 国際交流活動等に取り組む学校教育自己診断に肯定的評価（H29 79.6% H30 82.4% 令和元年 84.3%）を増やし、令和4年度には、85%をめざす。
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化
 - (1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。
 - (2) さらなる教育力発展のために、新教育課程開始時には土曜授業を廃止する。教育課程の編成時に朝学の枠組みの改定も検討する。
 - (3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
 - (4) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。新たに創設した「情報部」を機能させる。分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを推進する。
 - (5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
 - (6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。ノークラブデー、全序一斉退庁日の実施。残業時間月平均45時間未満をめざす。
 - (7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。
6. 個人情報等の適正管理
 - (1) 個人情報等の適正管理をめざす
 - (2) 備品等の適正管理をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力をつける	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の学力向上と進路実現を支援する。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめしていく。</p> <p>(6) 朝学（総合基礎）を充実させる。SSSC(Sakura Study Seminar Camp) [1年勉強合宿] を生かす。</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を生かし、第一希望の進路実現を図る。</p> <p>(9) 自宅学習、自習室の活用、講習、補習を積極的に取り組める体制づくりを行う。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) グーグルクラスルーム、クロムブック等を活用した授業形態に取組む。「調べ学習」「小テスト」「プレゼンテーション」を行って、生徒が主体的かつ協同して学ぶようにする。学習動画を取り入れ、学びなおしや基礎固めのサポートに努める。</p> <p>(2) GSC の授業で、4 大学から Native English Teacher 等の講師を招聘し、Speaking 力の向上をめざす。全学年でリスニングテストの実施。英検を 1・2 年で実施する。</p> <p>(3) 進路講演会の充実及び 5：30 以降の講習「桜塾」を継続発展させる。</p> <p>(4) アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10 年経験者研修受講者及びアドバンストセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 1 年生対象に総合的な探究の時間の実施。キャリア教育の目標を位置づける。2 年次は、地域諸団体との連携を模索する。</p> <p>(6) 積極的に取り組まない生徒への指導・補講を行う。SSSCにおいて高校での学習の仕方や授業規律について学ぶとともに、外部講師や卒業生による講演等で自らのキャリアデザイン等を描く。</p> <p>(7) 図書館利用者累計数の増加。図書委員会の活動の促進・カウンター係の仕事の充実化（書架・書庫の系統的な雑誌・書籍の整理）・図書便り（含：新刊書籍紹介）の定期的な発行を通じてのサイン活動の活性化。・年 1 回以上の校外購入選書の検討。・有効な情報検索と提供…コンピュータ利用の活性化。</p> <p>(8) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。第 2 外国語等専門教育の充実</p> <p>(9) 導入予定の学習動画の自宅での活用も推進する。講習受講や自習室の活用を促す。</p>	<p>(1) 授業アンケート～教材活用「先生は用具の他、I C T 機器や役に立つ教材などをうまく使っている」80%を継続する。</p> <p>(2) 大学出張授業を 6 回以上実施。事前打ち合わせを十分する。受験者の 50%が英検準 2 級以上、そのうち GSC の生徒は 20%以上が英検 2 級以上。</p> <p>(3) 満足度 70%以上</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の H31 年度 62.3%の 3%アップ 教員相互の授業見学を全員が取組む。 教科会議を十分確保する。</p> <p>(5) 新 2 年総合的な探究の時間で、地域諸団体の連携授業を実施する。</p> <p>(6) 補習の丁寧な実施。 総合基礎（朝学）の上位者表彰の継続。3 年めの 1 年勉強合宿（SSSC）の評価を行う。満足度 H31 年度 55%の 5%アップ</p> <p>(7) 図書室の利用者数 H31 年度 2383 名の維持。図書だよりの継続発行。図書室でのコンピューター利用の検討。</p> <p>(8) センター試験の自己採点において、専門コース生徒の全国平均を超える得点を継続する。 (H31 全体+20、リスニング+2)</p> <p>(9) スマホ・タブレット等を有効活用した勉強法を実施。 5:30 以降講習受講者の昨年度と同等をめざす。(H31 160 名)</p>	

府立桜塚高等学校

2 人間力につける規律、安全安心について	<p>2. 人間力につける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切にする」</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動</p> <p>(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。保健・安全・衛生管理に留意する。</p>	<p>(1) 「道徳教育の目標」として、ルールとマナーの関係性をグループワークで考えることにより、よりよい社会とのかかわり方について学ぶ。学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。時間を順守することの大切さを再確認する。頭髪、化粧、ピアス、や服装指導の徹底。授業規律も含め決められた規則を守り、礼儀に気をつける。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切にする」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参加し、教員は活動を支援・促進する。</p> <p>(4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。文化祭で演劇の推進。食物アレルギー対応マニュアルを策定し、日ごろから事故防止に努める。熱中症対策マニュアルを策定し、予防の最善準備をする。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率 70%以上を維持。前年度遅刻数の 5 %減。服装等指導対象とする。「授業規律」を、教務部、生活指導部、学年の組織で共通認識を持って指導する体制の整備</p> <p>(2) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均 8 %向上 (H31 年度 62%)</p> <p>(3) 年間 3 回以上の実施継続 (H31 年度 5 回)</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断関連項目 90%以上を維持 (H31 年度 94.2%)。生徒の食物アレルギー情報を把握共有し、各教職員の役割を明確にする。緊急時の対応が迅速にできるようにエビデンスを取り扱い等構校内研修を実施する。熱中症計の配備、運用を、生徒教員とも徹底する。</p>
3 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを開拓する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の発展。「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) 広報活動を積極的に実行。WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。生徒も、更新等に参画。</p>	<p>(1) OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを開拓する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、持続的な支援や交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験と、「地域と共に」を大切に「防災」の取組みを推進する。</p> <p>(3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。</p>	<p>(1) 公的機関等と連携し、入学式・卒業式にも臨席依頼し、生徒保護者へも周知する。大学と連携し、授業等を依頼し、生徒の自己実現を支援いただく。生徒による学校教育自己診断肯定的回答 70%以上 (H31 年度 68.2%) キャリア教育と進路実現に繋げる</p> <p>(2) 年 1 回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明</p> <p>(3) WEB Page を平均月に 8 回以上更新を継続する。(H31 平均月 10 回) 学校説明会参加者数の増加。(H31 年 12 月まで 生徒 691 人、保護者 818 人、計 1,509 人)</p>
4 グローバルリーダーの育成	<p>4. グローバルリーダー育成</p> <p>(1) 国際社会で通用する人材を育成する。国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組み。ホストファミリーの開拓。海外研修・留学(長期・短期)・海外進学について、様々な広報、生徒への情報提供、生徒のニーズ把握、生徒を指導するノウハウの獲得等、的確な対応ができる体制の整備を進める。</p> <p>(2) 「課題研究」の内容の再検討と更なる充実。「英語理解」におけるネイティブを含む大学講師の授業を依頼する。「第二外国語」「国際理解」など専門科目の充実</p>	<p>(1) 国際交流活動などに取り組み、これを肯定的に評価する生徒 85%以上 (H31 年度 84.3%)</p> <p>(2) 授業評価における生徒意識。2 回の平均値 3.3 以上 (H31 年度の GS 科目の平均値 3.2)</p>

府立桜塚高等学校

5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p> <p>(1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。</p> <p>(2) 土曜授業廃止に向け、朝学再構築等</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換をする。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みを推進させる。新たに創設した「情報部」を機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) さらなる発展のために、土曜授業の廃止に向け準備と、朝学の再構築。教育課程の検討や必要な会議の見直しをする。教科会議の設定。</p> <p>(3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。</p> <p>(4) 昨年度創設した「情報部」の業務のマニュアル化を行いスムーズに引継ぎができるようになる。情報部と事務中心にICT関係のインフラ整備を検討する。「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行う。分掌に位置付けられない組織（Sakura Project Team）の取組みをさらに機能させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革の継続、ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均45時間をめざす。年2回の学校休業日を生かす。部活動顧問業務量の平準化の推進。全職員にエアコン環境を確保する。</p> <p>(7) ミドルリーダーの育成。経験の少ない教職員へのOJT等の充実を図る。</p>	<p>(1)学校運営協議会において、全定に関する提言いただく。肯定的回答65%以上。（H31年度 64%）</p> <p>(2)教育課程改定に向けての教科会議10回以上の確保。関連項目肯定率80%以上を維持。</p> <p>(3)運営委員会で議論する時間を確保する。肯定的回答90%維持</p> <p>(4)情報部の役割を固め、業務のマニュアル化完成。SPTの取組みをさらに機能させる。</p> <p>(5)職員研修回数の精選を行う。PTAとの共催研修を企画する。</p> <p>(6)全職員残業時間月平均45時間をめざす。 全職員にエアコン環境を確保する。</p> <p>(7)校内研修に加え校外研修も勧め、問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率(60%維持)</p>	
6. 個人情報等の適正管理	<p>(1)個人情報等の適正管理</p> <p>(2)備品等の適正管理</p>	<p>(1)個人情報等の適正管理をめざす 個人情報廃棄簿の記載等確認の年間計画の作成</p> <p>(2)備品等の適正管理をめざす</p>	<p>(1)個人情報の適正管理に関する研修を年1回以上実施する。 個人情報廃棄簿の年間計画実施の確認をする。</p> <p>(2)各室の備品等管理簿（配置図含む）を作成し更新し、引継体制を強化する。</p>	